

ACCU news

Asia-Pacific Cultural Centre for UNESCO

特集 スタッフ座談会「私たちのこと、ACCUのこと」……2

心に“平和の砦”を ～座談会に寄せて……6

未来につながる一步を、ACCUと……7

交流で創造する未来への架け橋

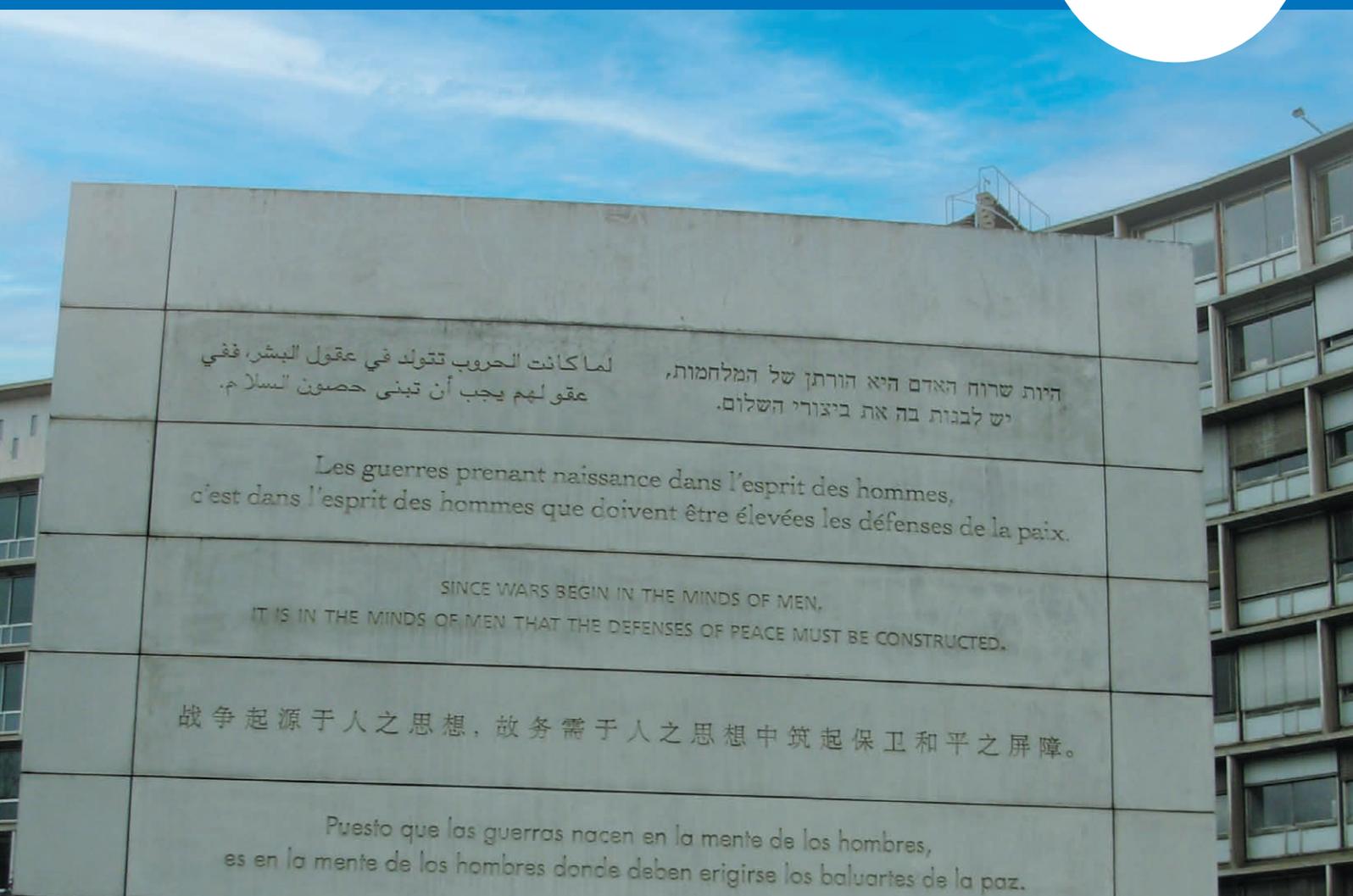
アジア太平洋青少年相互理解推進プログラム BRIDGE Across Asia 国際協働学習事業(BAAC)……8

文部科学省委託 令和6(2024)年度ユネスコ未来共創プラットフォーム事業……10

活動メモ……11

ACCU INFORMATION……11

No. **420**
2024年 8月号



ACCU

Asia-Pacific Cultural Centre for UNESCO



特集

スタッフ座談会

「私たちのこと、ACCUのこと」



BAACのオンライン開会式

DAY1 国際教育交流部

栗林 ACCUは海外で生活していた方も多のですが、私自身、国際交流に強い関心をもったのは企業時代、東南アジアや北米などに20年ほど駐在したのがきっかけなんです。ACCUでは未来の担い手、子どもたちのインフルエンサーである「先生」に働きかけようと「教職員国際交流事業」を20年以上も続けていますね。

伊藤 海外への関心が低かった先生が校長先生の勧めで参加し、海外の教育実践に触れたことでご自身が変容して教育実践が豊かになったり、交流国のことを児童に伝え続けたことで児童が自発的に外国語で掲示物を作成したり、「先生が変わる 子どもが変わる 学校が変わる 学びの場」というテーマに示されるような影響力を感じますね。

蓮見 「BAAC」^{*1}では、日本各地の高校生とアジア太平洋地域の高校生がプログラム参加後もSNSなどを通じてつながり、交流し

ているという話を聞きました。今年度は日本と、モンゴル・韓国・タイ・インドの高校生が参加されます。**栗林** 多分ここでなければ出会わなかった人、出来事などたくさんありますよね。皆さん、具体的に印象に残っている話があれば、ぜひ。

伊藤 昨年度の韓国招へい^{*2}のホームビジット^{*3}で、手巻き寿司づくりやお子さんとのゲーム、受入れ校の先生宅でお酒を頂き熱く語り合うなど、外国(日本)のご家庭で数時間過ごすことのインパクトは大きく、6年前に参加された先生の中にはホームビジット先のお子さんと成人した今でもつながっている方がおられると聞いて、交流プログラムが持つセレンディビティの要素も感じます。

栗林 様々な情勢の影響もあり、交流に向けての苦労もありますが、相手国と真摯に協力・連携しながら交流を実現し、参加者や子どもたちの笑顔に触れると、苦労も忘れて大きな喜びを感じます。日韓の先生が再会を約束し合う姿も印象的でしたね。

蓮見 どのプログラムでも、参加された先生や国内外の協力機関など多くの皆様に支えられて成り立っていることを常々実感しています。そういえば、韓国招へいの食事の席で「ゆっくりお召し上がりください」と韓国語の敬語で言ったつもりが友達っぽい言い方になっていたと後で気づき、韓国の先生に謝りに行ったら「コミュニケーションを取ろうとしてくれたことが嬉しくて気

にならなかった」と言ってくださったの心に残ってます。

栗林 そう言ってもらえるのはありがたいですね、更に言葉を勉強しようと思えるし。韓国といえば礼儀作法は厳しいと聞きますが、山本さんが留学されたときはどうでしたか。

山本 家族間でも両親には敬語を使うとか、礼儀やマナーに儒教の考え方が根付いていることが印象的でした。国同士の共通点や違いは実際交流する中で知ることが多いですね。

伊藤 交流ではマナーの勉強も欠かせないですよ。ちなみに言語面では発音や男性・女性言葉を間違えたりすると結構ツッコまれる(笑)

蓮見 でも上手くできたらすごく褒めてもらえるから調子に乗っちゃうんですね。マナーとは違いますが、タイの先生はニックネームで呼び合ってますよね。

伊藤 そうです。それで、タイの先生に倣って日本の先生もニックネームで呼び合うようにしたら、社会的な属性ではなくフラットに個と個でつながれたようでした。「出会い」の場として効果的だと思いますし、参加人数が多すぎないのもポイントかもしれません。

蓮見 それで言うと、いつか小規模でもインド派遣を実現したいですね。

磯川 話を伺っていると、皆さん事業の中身づくりと同時に進行で様々なことをされていて本当にマルチタスクですよ。会計では

手元に来た請求書を見てやりとりするくらいですが、規程を理解してルールもきっちり守ってくれて、やはりプロだな。

栗林 委託事業は特に費用面で神経を使うし、委託元への説明に必要なことを磯川さんが厳密に助言くださるのは本当に助かっています。団体運営で気をつけるべきことはいつも竹田さんに教えてもらっていますし。

竹田 案件ごとに法律上の問題がないか調べたり、必要とされるものを整えたり、公益法人向けセミナーや司法書士の相談会に行ったり、総務部も勉強は欠かせないです。団体運営で重要な役員関連業務も一つずつ丁寧に対応するよう心掛けています。

蓮見 事業の質向上という意味でも部を越えた関わりは不可欠で、何気ない会話からインスピレーションを得てプログラムに落とし込むこともあるんですね。

竹田 私たちも事業部のプログラムに参加させてもらうことで理解を深める機会になっています。

栗林 ところで今年度のBAACは今どんな感じですか？

蓮見&山本 参加者募集の仕方を工夫したり、幅広い方にプログラムに興味・関心を寄せていただけるよう試行錯誤中です。Model UNESCO^{*4}では神戸市外国語大学の先生や学生さんにもお世話になっていて、私たちも学びが多く沢山の刺激を頂いています。今回の議題は「世界文化遺産の保護」なので、文化関連催事の企画経験者として田代さんにもご相談しました。ちなみに田代さんは今後やりたい活動とかありますか？新しい企画でも。

田代 前職の経験を活かして、アジアの先生方を日本国内にある様々な文化施設にお

普段の事業報告などでは伝えきれない生の交流や印象的な出来事など、ACCUで働く私たちの“声”を通してお届けする、いつもとは少し趣の異なる特集です。事業部(with総務部)が主要事業に絡めて活動を振り返ったり、今後の目標を掲げたり、正直な話を打ち明けたり…ご覧いただいた皆様にも知っていただき、活動を応援・一緒に推し進める一歩を踏み出していただけると嬉しいです！

イフバランスも大事にしてもらいたいし、有休など取りやすくなるよう適宜アナウンスして、健康に勤めてもらえるよう支えたいと思っています。

栗林 皆さんそういった点もよく考えて働いてくれていますね。ただ、ACCUは営利企業ではないので時間の使い方と共に“やりくり”で特に会計が苦労していますよね。

磯川 大きなご寄付を頂いたことで今は一息つけていますが、ここ数年は資金移動して工面するというのをずっとやってきました。資金調達は常に大きな課題ですね。

栗林 資金がなければどんな団体も活動はできませんし、一人でも多くの方に活動を応援いただくには発信の仕方も大切で、この機関誌も、活動を知っていただく重要なツールですよ。最近常々、教育や文化は「平和でこそ」維持できると思うんです。過去にご参加くださった先生が「今まで日本にあまりよい感情をもっていなかったがこの交流で見方が180度変わった」と言

くださったときにも、ACCUの活動が友好のきっかけ、そして「平和」に対して重要な意味をもつと感じた。これからも地道に、取り組んでいきましょう。



教職員国際交流事業では、日本の先生がそれぞれの持ち味を活かし、現地生徒への授業を行ったり、日本を訪れた各国先生が生徒たちの活動に参加したり、様々な交流が行われる。

* 1…日本とアジア太平洋地域の高校生が対象の交流事業「アジア太平洋青少年相互理解推進プログラム BRIDGE Across Asia 国際協働学習事業」の略。ACCUの自主事業。
* 2…韓国教職員招へいプログラムの略。ここでは、海外教職員が訪日するプログラムを「招へい」、日本教職員が海外を訪問するプログラムを「派遣」と表記。
* 3…日本の受入れ協力校訪問後、各校で手配いただいた近隣の自宅に海外の先生が数名ずつ伺い夕食を頂きながら交流する企画。
* 4…別名：ユネスコ模擬国連。BAAC内プログラムの一つで、国際連合教育科学文化機関(ユネスコ)の国際会議を模擬した教育プログラム。

教育協力部

教育協力部は、ユネスコ本部や地域事務所^{*1}の元職員、元教員、大学院で教育を研究している者など、教育分野専門のメンバーが運営し、現在は文部科学省委託の「ユネスコスクール」「ユネスコ未来共創プラットフォーム」両事務局、識字教育支援、ノンフォーマル教育関連事業を主に実施しています。詳細はユネスコスクール公式ウェブサイト、ユネスコ未来共創プラットフォームポータルサイト、ACCU公式HPをご覧ください。

大安 日本はユネスコ活動が盛んですよね。ただ、それが必ずしも海外には伝わっていない。そこで、教育協力部ではユネスコスクール事務局として国内活動も大切にしながら意識的に海外とつながるような学校間マッチング支援などに力を入れているわけです。

藤本 地道にやってきたおかげで、アジア地域を中心に他国からのご相談も増えて、少しずつ成果が上がっている実感があります。
大安 フィンランドとか、新しく交流する国も増えて前より広がりが出てきたかと。

藤本 コロナ禍以降定着してきたオンライン交流に加え、互いの国のお菓子や手紙といった“実物”のやり取りも生まれて、生徒さんの交流意欲にもつながっているそう

です。国内校同士の交流では、修学旅行で実際に相手校を訪問されることもあったりして…

大安 国内外の温度差はあるけれどあまり気張らず、そういう実質的な交流を進めるような力の入れ方がいいかもしれない。

若山 最近は、教育以外の事業も手掛けるようになりましたね。プラットフォーム事業^{*3}では“ユネスコ”という共通項をもついろんなセクターの活動をつないで相乗効果を生み出そうとしていますし、若い世代のユネスコへの関心を高め、彼らをどう巻き込んでいくか、新井さんが一緒に勉強しつつ取り組んでくれています。

新井 昨年度のユネスコウィークのユースフォーラム^{*5}では、次世代ユネスコ国内委員会と連携したことでユースのユネスコ活動のきっかけや関心について深く知れたので、今年度はそんな皆さんとの連携を深めるか、認知度を上げることに重きを置くか、同時に進めるかで悩んでいます。

大安 ユネスコについてはあまり大層に考えず、「共通テーマでやれる」ぐらいでいればもう少し気楽にネットワークをつなげるんじゃないかなと。

岩崎 そういえば「ユネスコウィーク」という名前は若山さんが考えられたんですか？

若山 はい。「ウィーク」と掲げることで、

ユネスコ活動の入口がたくさんあることを包括的に示す狙いがある。それとプラットフォームとユネスコスクールで個々に大きいイベントをするのは大変だから一緒にやりたいなど。ただ昨

年度は他事業との兼ね合いもあってちょっと準備期間が短かったですね。

藤本 教育協力部は事業数が多く、年度途中で決まったりすることもあるので、並行してやる場合は時間的やりくりにも苦労しますよね。

渡辺 総務部で契約書をチェックしていて驚くことがあります。こっちの話をしていたと思ったら、あれも、これもって、同時進行で大丈夫？となったりして…

若山 契約一つとっても、相手方によって様式も進め方も違うので、大変さはありつつ、ある意味“アクセント”にはなっているかも。手が回らないときはアルバイトさんたちにも助けていただいていますし。

藤本 事業に生かせるようもっと勉強したいけど目の前のことで手一杯だったり、雑談中に浮かんだアイデアも今は余裕がないからと引っ込めてしまったりすることはあるけど、今年は無理でも来年にと少しずつ形にできているので、無駄なことはないかも。

大安 少人数ゆえの負担もあるけど、相談のしやすさがありますよね。委託元から運営方針が示されるまで動けない場合でも、ACCU内のスケジュール調整は割とスムーズだし、大きい組織だと逆に難しいでしょう。

浅野 少し話は違うんですけど、以前藤本さんが、普段から私たちにはざっくばらんに話せる雰囲気があって、それは部長の大安さんのキャラクターも大きいし、専門知識をもつ頼れる同僚やアルバイトさん、ボランティアさんの支えもあるから、この

チームでやれて感謝しているとおっしゃって、涙が出そうになったんですね。

渡辺 いい話ですね…！そういえばACCUでは上長も“さん”付けて呼ぶけど、あまり一般的ではない気がします。

大安 ユネスコではみんなファーストネームだったし一人一人違うのが当たり前、その中で上手くいけばよかったねと、そういう文化…他人のことをそんなに構わないんですよね。

藤本 個々で動いていても話しかけたらぱっと集まれる、そういうメリハリがあるのもいいですね。

浅野 常々、仲間に恵まれているなど感じます。一人でできることは限られるけど、個々にもつ強みで助け合ったり一緒に乗り越えたり…何かをつくり上げていけるのはこの環境でこそだと思っています。

渡辺 事業部は特に“産みの苦しみ”みたいなものも抱えながら走り続けていると思うので、そういうのは本当に大事ですよね。ところで今更ですが、ユネスコの案件はどうやって来ることが多いんですか？

藤本&若山 大安さんが専門家でいらっしゃるのもあって、ユネスコの方と情報交換する中で、というのが多いですね。私たちもユネスコとのつながりが深まることでいろいろと勉強させてもらっています。

大安 ユネスコを冠する以上ユネスコ本体と一緒に事業をやるのは一番筋が通っているというか。幸い昔の同僚が各地域事務所にいるので話も進みやすいですね。ちなみに今度フィジーにも地域事務所ができるそうです。

渡辺 地域事務所が増えればACCUと仕事したいと言ってくれるところも更に出てくる？



文部科学省やユネスコなどの委託事業を数多く実施するとともに、日本のみならず、アジア太平洋を中心とした国や地域の人びとと連携・協力して事業を展開している。



大安 ユネスコでは短期や中期の計画で柱を立てるので、それに合わせたことを日本でもやれば可能性はあります。

若山 一緒に事業をやるといえば、SMILE^{*7}は対象もやることも伝わりやすいと思っています。支援する国・地域を広げるなら参画者を増やすことも重要なので、例えば学習教材と一緒に作る参画型のプロジェクトとか、学校でもSMILEのような出前授業をして古本を集めてもらうといったことができたらなど。

岩崎 社会貢献活動において「手応え・実感」を求める人は一定数いて、総務部でもACCU維持会員制度の特典として「ACCUプログラムへの参加」について話していたんです。私たちの活動は、戦争や飢餓など“今この瞬間”の時間軸とは異なりますが、SDGs、地球規模課題への関心が高まり、身近な課題に気づいて自分も何かしたい、でも何をしたらいいかわからないという方々と、企業や地域の方、その道の専門家をつないで、ゆくゆくは「自分たちの未来をつくるための行動、仲間とつながるきっかけ」になれたらと思います。

渡辺 そういふ循環を生み出せたら、素敵ですよね。そういえばACCUは、企業向け事業をしていたことはあるんでしょうか？

大安 企業と進める地域づくりプロジェクト

トはありました。ただ、私たちがすぐに連携しやすいといえば、研究者かも。例えばある分野で熱心に活動するユネスコスクールと彼らをつなげることで知見が増え、他のユネスコスクール

にも共有される。こういうつながりをつくる力は研究者個人には無いので…

新井 大学の友人も就職後に学びの機会がないと言っていて。今の世界情勢を見るとどこに課題を絞るか難しい面はあると思いますが、「共通課題」を見つけることで、そういう人や企業を巻き込むネットワークもつくれるのでは少し思いました。

大安 いずれにしても、今はオンラインで大抵の情報は得られるし、社会課題への問題意識をもっていれば、すでにどこかと連携したり自らノウハウをつくっていたりするのでは…ACCUにどういふ“付加価値”がつけられるのか、これからよく考えないといけないですね。

座談会実施：2024年5月

DAY2 教育協力部



- *1…世界各地のユネスコ活動の管轄や特定分野の助言など、世界53か所（2021年6月時点※出典：文部科学省HP）に設置されているユネスコの事務所。日本はユネスコ北京事務所（Regional Office）の管轄。
- *2…ユネスコ憲章に示されたユネスコの理想を実現するため、平和や国際的な連携を实践する学校。ACCUは文部科学省委託で2008年から事務局を運営している。
- *3…文部科学省委託事業「ユネスコ未来共創プラットフォーム」の略。多岐にわたるユネスコの活動分野・主体の横の連携を促し国内外へ向けた戦略的情報発信を目的に設置され、2022年7月からACCUが事務局を運営。
- *4…国内ユネスコ活動を横につなぎ多様なステークホルダーが連携する場として、また同活動成果の国内外への戦略的情報発信の機会として1週間にわたって開催。文部科学省・日本ユネスコ国内委員会・ACCU主催。
- *5…ユネスコ活動に取り組む・関心をもつユース世代の分野横断的な出会いの場として、地球規模課題などのテーマの下に「ユネスコウィーク」内イベントとして開催。
- *6…日本のユネスコ加盟70周年の機会に、未来を担う若者からの声を今後のユネスコ活動に反映させるべく、ユース世代をメンバーとして文部科学省が設置した組織。
- *7…ACCU自主事業「SMILE Asiaプロジェクト（識字学習支援事業）」の略。妊婦や子育て中の女性に読み書き計算や保健知識等の学習機会を提供することで、エンパワーメントの促進や家庭と地域の教育・保健環境の改善を目指す。現在TOPPANホールディングス様ご支援の下カンボジアで実施。



心に“平和の砦”を ～座談会に寄せて

日頃よりACCUの活動にご賛同、応援してくださる皆様へ、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

ユネスコ・アジア文化センター (ACCU) は、ユネスコからの打診を受け、アジア太平洋地域の教育と文化の相互交流を促進する中核的センターとして、日本政府と出版界を中心とした民間の協力によって1971年に設立されました(2011年に公益財団法人へ移行)。以来、ユネスコのうたう「平和は、人類の英知と精神的な連携の上に築かれるものである」という理念に基づき、多様な文化が尊重される、平和で持続可能な社会の実現に貢献するための事業を推進しています。

社会の課題を“自分事”として捉え、身近なところから取り組むことにより (Think globally, Act locally)、それらの解決につながる新たな価値観や行動を生み出すことを目指し、設立から50年以上にわたって多くの事業に取り組んでまいりました。そして、持続可能な社会の創り手・担い手を

育む教育、すなわちESD (Education for Sustainable Development) が重要であるとの認識の下、誰もが自らの意志で参加できる学びの基盤づくりと、学びを通じて人と人、人と地域社会、伝統と未来を“つなぐ”活動を続けております。

今回、ACCUの東京事務所のスタッフが集い、私たちの活動について、また、ACCUで働く自分たち自身について熱く語り合いました。スタッフ同士が座談会という形でこれまでの活動を振り返り、俯瞰し、

日々どんなことを思いながら事業に取り組んでいるか、今後どのようなことを成していきたいかといった事を話すのは初めての試みでしたが、それぞれの考えや異なるバックグラウンドをもちながらも同じ目標に向かって進んでいることを再確認するよいきっかけとなりました。また、コロナ禍以降、職場の仲間であっても同じ空間に集まり、密にコミュニケーションを取ることが難しくなりましたが、互いに目を見て語り合うことの大切さを改め

て実感できたという声もありました。私たちの活動は、その成果が目に見えてすぐに現れるものではなく、地道に積み重ねた先に結実するものであること、そのためにはスタッフ間のもとより、様々な人や地域、国を越えた連携・協力が不可欠であるということを、それぞれが認識する機会にもなったことと思います。

未だ世界規模で困難な状況が続く、取り組むべき課題は山積しています。先の見通しづらい今だからこそ、ユネスコ憲章前文にある「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和の砦を築かなければならない」という言葉の重みについて真剣に考え、持続可能な社会を実現していくのは私たち一人一人であることを自覚し、行動していくことが肝要であると考えます。ACCUは、今後も多様な人々と相互理解を深めながら一層努力を重ねてまいります。本特集をご覧いただいた皆様にも、ACCUの活動を知り、共感していただければ幸甚に存じます。これからも、あたたかいご支援とご協力を心よりお願い申し上げます。



田村 哲夫 (たむらてつお)

ユネスコ・アジア文化センター理事長 (2010年～)。学校法人渋谷教育学園及び学校法人青葉学園東京医療保健大学・大学院理事長、他。文部科学省中央教育審議会委員、日本私立中学高等学校連合会長、日本ユネスコ国内委員会会長などを歴任。

未来につながる一步を、 ACCUと

「自分も何かしたい、けれど何ができるだろう?」と日々の暮らしの中で感じることはありませんか。ACCUは、そうした思いと共鳴し、人、地域や国、具体的なアクションを未来につないでいきたいと考えています。

“Think globally, Act locally” — 私たちと一緒に取り組んでみませんか?



つながろう、はじめよう ~活動応援方法~

維持会員

法人・個人・学生

ACCUを継続応援いただく方法です。特典もございます。

- ・『ACCU news』を毎月お届け
- ・ACCU制作物を特別価格でご案内
- ・税制上の優遇措置 (寄附金控除の適用)



<https://www.accu.or.jp/support/member/>

寄付

寄付金・本や品物・遺贈

事業へのご寄付、社会貢献活動を行う団体を通じた古本・品物での寄付、信託銀行と提携した「遺贈寄付制度」もご用意。税制上の優遇措置 (寄附金控除の適用) が受けられます。



<https://www.accu.or.jp/support/donation/>

活動参加

事業ごと・ボランティア

各事業・プログラムへの直接参加、オフィス内事務作業ボランティアとして活動を応援いただく方法です。ACCU公式HP「活動に参加する」などで随時募集しています。



<https://www.accu.or.jp/join/>

お問い合わせはこちら | general@accu.or.jp / 03-5577-2851

詳細は各URL・QRコードのページでもご案内しています。

※QRコードは(株)デンソーウェブの登録商標です。

交流で創造する未来への架け橋

アジア太平洋青少年相互理解推進プログラム
BRIDGE Across Asia 国際協働学習事業(BAAC)

ACCUでは、日本とアジア太平洋地域の高校生を対象に、対話型ワークショップやModel UNESCO(ユネスコ模擬国連)などの多様な手法を用い、国・地域の垣根を越えた学び合いと交流を深める協働型学習を推進しています。今回、過去のプログラムに参加された皆さんにインタビューし、現在の活動や今後のビジョンなどを伺いました。

インタビュー実施：2024年 4月



2021年度参加 仲柴 雄貴さん

ACCU：BAACに参加したきっかけは何ですか？

仲柴さん：僕がBAACに参加した2021年は、新型コロナウイルスの感染拡大により、ほとんどの課外活動がキャンセルされてしまっているような状況でした。いろいろとやりたいことはあるのに何もできず「どうしようかな」と思っていた頃に、BAACのポスターを見つけました。当時、インターネット上に公開されていた動画で、海外の高校生が模擬国連や学校外で行う国際的な活動に参加している様子に刺激を受けて、自分もそのような活動に参加したいという気持ちが芽生えていました。そこで、自分が得意な英語を活かし、日常では経験できない海外の高校生との交流を通じて見聞を広めたいと思い、プログラムへの参加を決めました。

ACCU：BAACへの参加をきっかけにしたことはありますか？

仲柴さん：現在、BAACへの参加をきっかけに興味を持ったUnited World College(UWC)Maastrichtに留学しています。BAACで国内外の高校生と交流する中で、彼らが積極的かつ主体的に様々な活動に取り組んでいる姿に影響を受け、UWCでもあらゆることに挑戦しています。UWCの生徒が主体的に企画・運営する「Student-Led Initiative(SLI)」という活動では、日本人研究者の方をオンラインでゲスト講師としてお招きし、窒素問題についてお話いただくサイエンス関連のイベントを開催しました。その他の活動としては、自分たちの髪の毛を寄付したり、放射線治療を行っているクリニックでのインターンなどもやっています。

ACCU：今後のビジョンも教えてください！

仲柴さん：将来的には大学でプログラミングを学びたいと考えています。それから、オランダでの生活でいろんなつながりができたので、それを活かして教育関連のインターンシップを続けつつ、これまでUWCやBAACでお世話になった方々への恩返しをしていきたいです！

* オランダ・リンブルフ州マーストリヒトの中等教育機関



2022年度参加 出来山 育世さん

ACCU：BAAC参加前後でご自身に何か変化はありましたか？

出来山さん：BAACに参加する前は、ニュースや新聞で海外の出来事や国際情勢について報道されているも他人事のように考えていましたが、実際に海外で生活する高校生と交流することで、海外のニュースを自分事のように身近なものとして捉えられるようになったのが、一番大きい心境の変化だなと感じます。BAACでペアワークをしたインドの子とは今も連絡を取り合っていて、日本で地震が発生したときにはその子が連絡をくれたこともありました。お互いを気にかけることができる関係性やつながりをつくれたことは、自分にとって有意義な経験だったなと思います。

ACCU：BAACへの参加をきっかけにしたことはありますか？

出来山さん：BAACへの参加をきっかけに、今まで以上に英語の勉強に力を入れるようになりました。そこから英語の資格取得につなげることもでき、また、島根県英語弁論大会や高校生国際シンポジウムなどの課外活動にも積極的に参加するようになりました。シンポジウムでは、地元・島根県の伝統文化の一つである「石見神楽」に関する探究活動の成果を発表しました。

ACCU：現在の活動や今後のビジョンを教えてください！

出来山さん：今は高校を卒業して、神戸市外国語大学の外国語学部中国学科に在籍しています。BAACの活動の一つ「Model UNESCO」では、神戸市外国語大学の学生さんがファシリテーターとして参加されていて、皆さんが流暢に英語を話している姿に憧れを抱き、また、この大学は模擬国連のカリキュラムがすごく充実していたのもあって、進学を決めました。将来的には、中国語圏に留学したいです。BAACに参加して、実際に話すことで分かることがたくさんあると感じました。留学できた際には、現地で見たり感じたことなどを基に、中国に対する多面的な視点を提供できる存在になればなと思っています。



2023年度参加 前山 朝香さん

ACCU：BAAC参加前後の心境や印象的だったことを教えてください。

前山さん：BAACでは国内外の高校生との異文化交流を通じて、日本に関する質問をされることが多く、そのことをきっかけに、自分が住んでいる地域や文化について調べるようになりました。参加前は「海外で活躍したい！」という気持ちが強かったのですが、参加後は海外よりも日本国内に目を向けるようになり、地元地域に存在する様々な文化に触れる中で、「自分のやりたいことって、もしかしたら地域貢献じゃないかな」と思うようになりました。また、印象的だったのは、BAAC参加期間中、他の参加者の方が話していることが理解できないこともあったのですが、自分が緊張しながら話している時に「なるほどね」と共感してくれたり、質問してくれた海外の高校生がいて、それが嬉しくて、今でも強く心に

残っています。

ACCU：BAAC参加後にはどのような活動をしましたか？

前山さん：国際協力や異文化交流についてもっと知りたいと思い、高校の「総合的な探究の時間」を通して課外活動に参加したり、BAACでお世話になったACCUの職員の方にインタビューをしました。このような活動を通じて国際協力に必要なスキルや心構えなど、世界で活躍する上で重要なものを自分なりに考えることもできました。それ以外には、月に1～2回ほど、地域に住む日本以外の文化をもつ子どもたちに勉強を教える会に参加しています。

ACCU：前山さんの今後のビジョンを教えてください！

前山さん：将来は、今後ますます増えることが予想されている在日外国人の方が、医療・福祉サービスに円滑にアクセスできるように、医療機関で活躍したいなと思っています。高校を卒業した後は、地元の看護大学に進学して、在日外国人の健康・福祉の課題などについて学びたいと考えています。また、東南アジアの看護師研修生の方との交流機会も積極的に作り、自分自身の異文化理解にもつなげていきたいです。

その後の活動
仲柴さん



UWCでのイベント
(Asian Culture Week)への参加

その後の活動
出来山さん



高校生国際シンポジウム

その後の活動
前山さん



「総合的な探究の時間」での発表

インタビューから見たもの

BAACに参加された皆さんが、グループディスカッションやペア交流といった本プログラムの活動を通じて学んだこと、感じたことはまさに三者三様であったことと思います。自分の生活圏内の文化や多様性に目を向けるようになった方、自分の知らない地域へ興味を持った方など、自己・他者・世界それぞれに対する向き合い方に変化があったことがうかがえる一方で、皆さん共通して、同世代の方に触発され、次のステップへと歩みを進められていました。また、プログラム終了後もそれぞれがつながり、お互

いにかけていない存在となっていることが感じられ、私たち自身、大変嬉しく思います。

ACCUでは、これからは継続して参加者の皆さんのその後の取組や夢を応援していくとともに、今後のプログラムに参加して下さる高校生に対し、より充実した学びと交流の機会を創出できるよう努めてまいります。最後になりましたが、本インタビューにご参加いただいた皆さん、そして本事業実施にあたりご支援・ご協力いただいた方々に心より感謝申し上げます。

文部科学省委託 令和6（2024）年度ユネスコ未来共創プラットフォーム事業

ユネスコスクールって何をするの？

ACCUは文部科学省の委託により、ユネスコスクール事務局を運営しています。

事務局では、年間を通してユネスコスクール/キャンディデート校に向けたイベントを多数実施しており、今年度の皮切りとして5月8日、9日に「ユネスコスクール入門講座」をオンラインにて開催しました。

本講座は、年度が替わり新たにユネスコスクールに赴任してきた先生やユネスコスクール担当となった先生を主な対象に、「ユネスコスクールとは何か？」について詳しく知り、今後の教育活動に生かしていただくことを目的としています。今回は、ユネスコスクールで長らく校長を務められ、現場での実践にご知見の深い手島利夫氏を講師にお迎えし、現役の先生を中心とした約90名にご参加いただきました。2日間の講座を通して、SDGsと学習指導要領の相関性や主体的・対話的で深い学びを実現する学校づくり、持続可能な開発のための教育（ESD）についてお話しいただき、先生方は大変参考になったようでした。また、講師による講義だけでなく、

参加者同士が互いの取組について話し、交流し合う時間も設け、大盛況のうちに閉会しました。

参加された皆様が、本講座で学ばれたことをご所属先で広められ、ユネスコスクールの活動が深化していくことを願っております。



* ユネスコスクール詳細 ↓
<https://www.unesco-school.mext.go.jp/about-unesco-school/aspnet/>



手島 利夫先生



ユネスコスクールの校長として13年間ESDの推進に取り組む

ユネスコスクールに着任し、突然ESDの推進役となられて、「何のことやら」とお困りの先生方も大勢いらっしゃったことと思います。そのような先生方が、自信と誇りをもって、日本の学校教育の推進役として活躍いただけるよう、心を込めてお話させていただきました。2日間の連続講座という貴重な学びの場を企画・運営して下さったACCUの皆様と、楽しく、そして真剣に参加して下さった受講者の皆様に感謝しております。お困りのときには、ご相談ください。いつも応援しております。



Participants' comments

ユネスコスクールがどういったものか、そして、その理念がいかに現状の学校教育にとって有意義なものかが大変よく分かりました。

ディスカッションの時間は他校の先生から思いもよらないアイデアを伺うことができ、刺激的な時間を過ごせました。



ESDというのは一部の学校が行っている先進的な取組だと思っていましたが、学習指導要領にも関連した記述があり、必要性を理解できました。

ESDカレンダーの考え方、作成方法が非常に参考になりました。今回の講座で学ばせてもらった内容を教育活動の中で生かしていきたいです。

インクルーシブな地域コミュニティ推進事業 第3回地域会合

①3/7②ACCU③オンライン④7名（日本、カンボジア、フィリピン）

令和5年度第6回ユネスコスクールオンライン意見交換会

①3/14②ACCU③オンライン④12名

ユネスコ未来共創プラットフォーム事業 第2回運営協議会

①3/25②ACCU③オンライン④10名

北陸・関西 ASPnet 復興連帯プロジェクト,2024

①5月～11月②大阪公立大学、大阪・関西ユネスコスクールネットワーク③大阪府、石川県④約400名

ユネスコスクール入門講座

①5/8～9②ACCU③オンライン④90名

MOU 調印・研修事業協議

①5/8～9②ACCU奈良、ICCROM③イタリア

（ローマ）④8名（日本、イタリア、韓国、スペイン、インド）

ユネスコ活動プラットフォーム 共創ワーキンググループ第1回会合

①5/21②ACCU③オンライン④11名

ASPUnivNet 第1回運営委員会

①5/28②ACCU③オンライン④12名

台湾視察団訪問受入れ

①5/31②台湾教育部、ESD-J③東京都④32名

文化遺産保護協力事業委員会

①6/3②ACCU奈良③オンライン④14名

令和6年度第1回ユネスコスクールオンライン意見交換会

①6/27②ACCU③オンライン④24名

韓国政府日本教職員招へいプログラム

①6/29、7/9～14、8/24、2025/1/11②韓国教育部、韓国ユネスコ国内委員会、文部科学省、ACCU③オンライン、韓国（慶尚南道、釜山）④50名

ESD for 2030 Asia Pacific Regional Meeting

①7/2～4②UNESCO ジャカルタ地域事務所③マレーシア④アジア太平洋地域の各国代表者

ASPUnivNet 評価検討会議・第1回連絡会議

①7/5②ACCU③オンライン、東京都④約50名

文化遺産ワークショップ事前調査（ベトナム）

①7/21～27②ACCU奈良、ベトナム南部社会科学院考古学研究所③ベトナム（ホーチミン）④6名（日本、ベトナム）

令和6年度ユネスコスクール定期レビュー研修会

①7/23、25、30、8/6②ACCU③オンライン④約240名

ACCU INFORMATION

韓国での出会いと学び

2024年7月9日～14日に「韓国政府日本教職員招へいプログラム（通称：韓国派遣プログラム）」が実施されました。日本教職員と教育行政職員50名が韓国の慶尚南道と釜山の教育機関、文化施設等を訪れ、地域連携の下に行う教育施策、少子化に伴う教育実践、デジタルを活用した学習など様々な取組を学びました。また、日本教職員が韓国の児童・生徒に日本の伝統文化やあそびを教える文化交流授業も行い、教育・文化に触れる貴重な機会となりました。各訪問先での「日韓教職員交流」では、両国教職員同士、共通する課題を抱えながらも真剣に教育と向き合っていることを認識し合い、日韓の学校間交流や自身の教育実践にアイデアを取り入れるきっかけも生まれました。

徒に日本の伝統文化やあそびを教える文化交流授業も行い、教育・文化に触れる貴重な機会となりました。各訪問先での「日韓教職員交流」では、両国教職員同士、共通する課題を抱えながらも真剣に教育と向き合っていることを認識し合い、日韓の学校間交流や自身の教育実践にアイデアを取り入れるきっかけも生まれました。



ACCU INFORMATION

今年度春以降に入職したスタッフをご紹介します♪

人生訓は縁・運・ツキです。一つ一つのご縁を大切に交流事業と向き合います！

国際教育交流部 山本



夢であった国際交流業務に携わることができ、毎日が刺激的で充実しています。

国際教育交流部 田代

ポストコロナの新しい時代の教育にACCUの一員として関わることが楽しみです。

教育協力部 福尾